

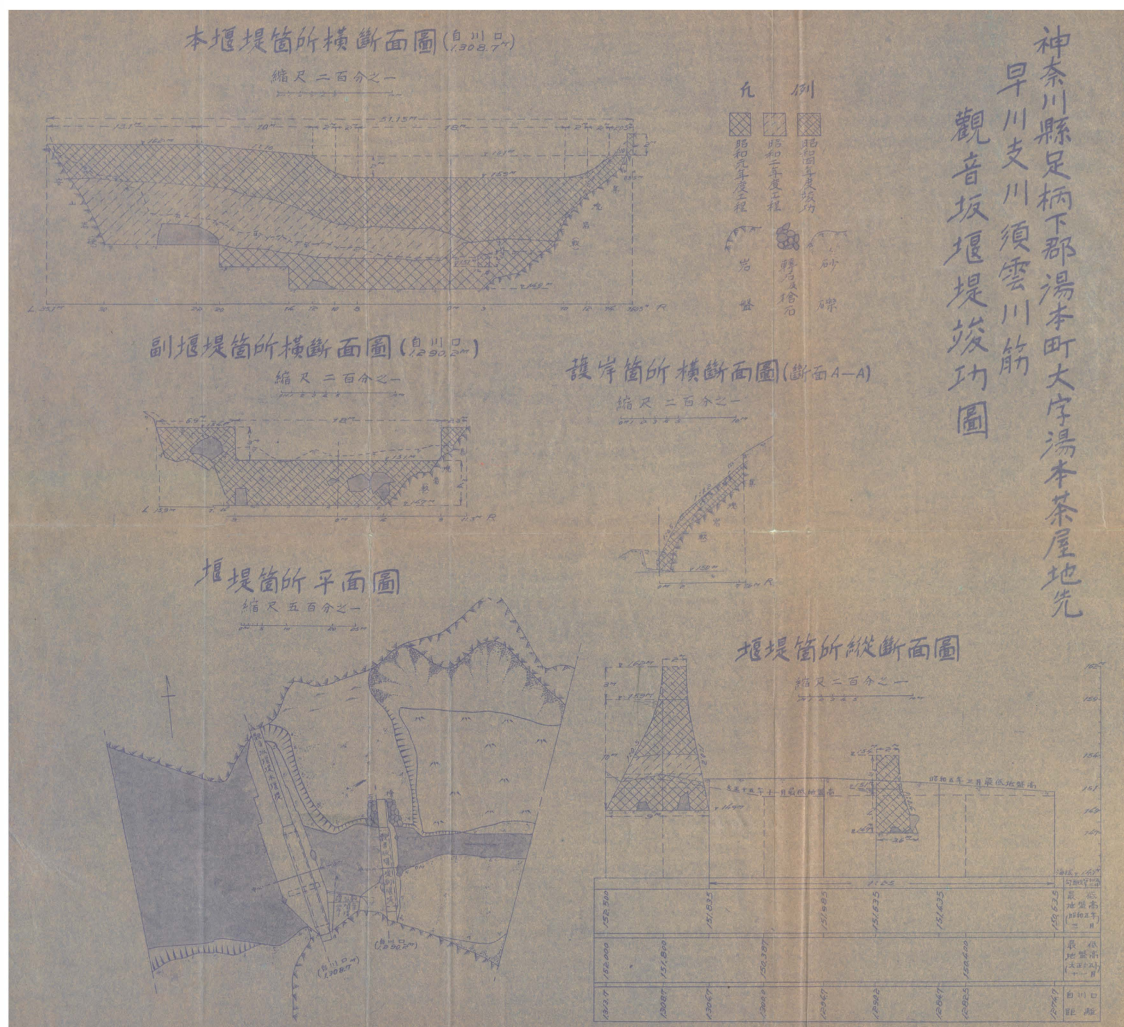
歴史的砂防施設: 観音坂堰堤 (Kannonzaka Dam)



SABO-DATA (ClGrMM)

所在地: 神奈川県足柄下郡箱根町湯本茶屋
形 式: 不透過型重力式石積堰堤
管理者: 神奈川県 小田原土木センター

溪流名: 二級河川早川水系須雲川
規 模: 高さ10m 堤頂長51m
完成年: 1930年(昭和5年)



ランダム情報

関東大震災による震災復旧事業として、国(内務省)直轄工事により施工され、昭和5年に竣工。箱根町の旧東海道(箱根八里)沿いを通る須雲川の下流域に設置された高さ10mの重力式石積砂防堰堤。須雲川流域では過去から山腹崩壊や土石流が多く発生しており、これまで多くの砂防堰堤が設置されている。観音坂堰堤は、下流域への土砂流出や河岸の浸食を防ぎ、河道を安定させ、現在もその機能を維持しており、古くから須雲川沿いの温泉宿や旅館の安全に大きく寄与している。箱根湯本の湯場湯通りを奥湯本方面へ登り、ホテル南風荘前の片倉橋から約150m上流に見ることが可能。(駐車可能場所なし)【危険度★】

こだわり技術

本堰堤の約15m下流に副堰堤を設けており、副堰堤の向きを若干変え、緩やかな曲線を描いている河川の形状に合わせて配置されている。これは下流の河岸保護や河道安定を図る観点から、堰堤の向きを下流の流心線に直角とすることを基本として、現在も設計技術指針に記載されている。石積の堤林を流れる水流が、湯治場の自然景観に彩りを与えており、時代を超えても周辺の景観と調和した美しい堰堤が築かれている。2004年(平成16年)7月に歴史的砂防施設として登録有形文化財に登録。